

平成27年度第2回五所川原市総合教育会議 会議録

〈開催日時〉 平成27年12月25日（金）10:05～10:49

〈開催場所〉 五所川原市中央公民館 2階 第1会議室

〈議事日程〉

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 協議
(1) 金木高等学校市浦分校に係る県教育委員会への要望について
- 5 意見交換
- 6 閉会

〈出席者〉

市長	平山誠敏
教育長	長尾孝紀
委員	阿部育也
委員	丁子谷悟
委員	木村吉幸
委員	三潟洋生

〈説明のために出席した者の氏名〉

・教育委員会（事務局）

教育部長	寺田建夫
教育委員会事務局教育総務課長	伊藤一二三
教育委員会事務局教育総務課課長補佐	福山佳秀

・市長部局

総務部長	岩崎明彦
財政部長	佐藤明

〈会議の概要〉

開会 10:00

○教育部長（寺田建夫）

ただ今より、平成27年度第2回五所川原市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、平山市長より、ごあいさつをいただきます。

市長あいさつ

○市長（平山誠敏）

本日は年末のお忙しい中、第2回総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。10月に開催された第1回の会議では、当会議の運営要綱や教育施策の大綱を策定すること

としたほか、金木高等学校市浦分校の運営について協議し、平成29年度入学生からの募集停止を市の方針とすることといたしました。本日は、これに関連する案件として、募集停止後の対応策に関する県教育委員会への再要望について、皆様にご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

さて、前回の会議が終わってから、市内の学校について非常に印象深い出来事がありましたのでご紹介したいと思います。11月に五所川原第一中学校で「創立50周年記念及び新築記念式典」が挙行され出席しましたが、式の中で生徒の皆さんの威風堂々とした姿を見て、私は大いに感動するとともに、普段の学校生活を垣間見たような気持ちになりました。

私は市長に就任してから、何度か式典出席のため学校へ赴くことがあるものの、生徒の皆さんの普段の学校生活を伺う機会はありませんが、皆様は学校訪問ということで、毎年度必ず全ての小中学校を訪問し、授業の様子などご覧になっていると伺っております。本日は、意見交換の場で、子ども達の学校での日常をご覧になっている皆様から忌憚のないご意見を頂戴し、私も当市の学校教育の現状について認識を深めていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

○教育部長（寺田建夫）

ありがとうございました。続きまして、長尾教育長より、ごあいさつをいただきます。

教育長あいさつ

○教育長（長尾孝紀）

教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶申し上げます。まず最初に、小学5年生と中学2年生を対象に8月実施されました県学力学習状況調査の結果が、先日16日に公表されました。結果を見ますと小・中学校も昨年から大幅に落ち込んでいて、大きな衝撃を受けております。市及び県の状況と今後の対策等については、今、指導課でいろいろと分析しておりますので、後日改めて、報告する機会を設けたいと思います。

次に、前回の総合教育会議において、金木高等学校市浦分校の募集停止について協議し、これまでの経緯に基づいた総合的な判断から、平成29年度入学生から募集停止とすることを市の方針として決めました。その際、市長から、「地域の実情を踏まえた対応策を講じるよう県に強く要望してほしい。」と指示を受けましたので、その後改めて保護者、地域の説明会を開催しました。地域の要望等も含め、県教育委員会に改めて、市から要望書を提出し、文書で回答を求めていると思いますので、総合教育会議で検討していただければと思います。

協議

案件1 金木高等学校市浦分校に係る県教育委員会への要望について

○教育部長（寺田建夫）

続いて、次第の4、協議になりますので、これより会議の進行は、議長である平山市長にお願いいたします。

○市長（平山誠敏）

次第に従って会議を進めて参りますが、まずは会議録の署名者について、五所川原市総合教育会議の運営に関する要綱の第8条第2項に「議長が指名する2人の構成員が署名」とありま

すので、市長部局から私が、教育委員会からは長尾教育長にお願いしたいと思いますので、よろしく申し上げます。

それでは、次第の4、協議に入りますが、案件1「金木高等学校市浦分校に係る県教育委員会への要望について」事務局からの説明をお願いします。

○教育総務課長（伊藤一二三）

「資料1」と印字されている資料をご覧ください。10月7日の第1回総合教育会議において、金木高等学校市浦分校の運営について話し合わせ、苦渋の選択ながら、平成29年度入学生からの募集を停止する旨、設置者である市の判断としたところですが、同時に市長から教育委員会に対して、関係者に丁寧に説明し対応するのはもちろんのこと、その後の対応策について県教育委員会へ再度要望することを付帯条件として出されていたものです。関係者への説明としましては、11月4日に保護者説明会を、同月10日に地域説明会を開催して、これまでの経過やこの度の方針の決定、そして今後の予定について説明し、会場にお越しいただいた皆様からも様々なご意見をいただいております。

県教育委員会への再要望につきましては、この資料が要望書の案となっておりますが、第1回の総合教育会議や、その後の説明会の中で要望することとして話し合われた内容を3箇条にまとめて明記しており、要望者名についても、これまで教育長名であったものを市長名により要望するものです。

○市長（平山誠敏）

県教育委員会への要望については、教育委員会でも6月に行っているようですが、今回は第1回の総合教育会議や11月の説明会での内容も踏まえ、かつ、私の名前で要望するものです。この11月の2回の説明会については、参加者からご意見をいただいていたところですが、どの様なものであったのか紹介していただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○教育総務課長（伊藤一二三）

保護者説明会においては、

- ・閉校後の校舎は、どのような活用をされるのか。
- ・地域に高校があれば、学校祭や登下校時でも地域の方とも交流がありすごく和んでみえる。それが無くなるのは残念だ。

などの意見が話され、

地域説明会においては、

- ・全日制での学校生活が苦手などといった生徒を受け入れてきた市浦分校の役割を、他の県立高校で対応できるのか心配だ。
- ・平成28年度に入学生がなければ1年早まるのか。
- ・閉校に向けて、記念誌の発行などPTAや同窓生を中心に実行委員会を設立しなければならないと思うが、行政の支援もお願いしたい。
- ・現状は理解しているが、なんとか学校は残して欲しいのが本音である。ただ、設置者が判断するのであれば仕方がない。車力分校や小泊分校、稲垣分校が閉校になってからも、今までよく存続させてくれたと思う。

などの意見が話し合われております。

○市長（平山誠敏）

ただ今の事務局の説明にありましたとおり、関係する皆さんから、今後を心配する声を多くいただいています。この声に答えを求める意味でも、本日お示しした要望書案で県教育委員会に要望すべきだと思っていますが、皆さんからこのことについて、ご意見をいただきたいと思っています。

○教育長（長尾孝紀）

教育委員会としましては、要望するのであれば、市としての方針を固めた後であり、かつ、高等学校将来構想検討会議が県教育委員会へ答申する前のこの時期が最良であると思えますし、要望が設置者である市長によるものとなれば、より意義あるものになると考えます。要望の内容についても、これまでの一連の流れの内容を含んだものになっていますので、この案のとおり県教育委員会へ要望いただければと思います。

○市長（平山誠敏）

ありがとうございます。教育長より、この案のとおり県教育委員会へ要望しても良いのではないかとのご意見をいただきましたが、委員の皆様はいかがでしょう。（各委員から「この案でよろしいのではないか」の声あり）

○市長（平山誠敏）

ただ今、皆様より、この要望書案について承認いただきましたので、早速、県教育委員会に対して要望して参りたいと思います。

意見交換

○市長（平山誠敏）

それでは、続きまして、次第の第5、意見交換に入ります。第1回会議の意見交換では、今年4月に策定した「五所川原市いじめ防止基本方針」とそれに基づく取組状況について話し合いました。また、いじめについては、先週閉会したばかりの第5回市議会でも一般質問がありましたし、実際に子どもを学校に通わせている保護者の皆さん以外の一般の方も関心がある問題なのではないでしょうか。当市の現状について、今一度、確認したいのですが、どれくらいいじめが起こっていて、その後どのようにになっているのか、大まかな数字で構いませんので、説明をお願いします。

○教育長（長尾孝紀）

「五所川原市いじめ防止基本方針」を策定しましたので、それに基づいて、今年度は全ての小中学校に毎月「いじめアンケート」の結果を提出してもらっています。その調査による12月1日現在の認知件数ですが、小学校が16件、中学校が27件、合計で43件となっています。いじめの内容になりますと、「冷やかしのからかい・悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が32件と一番多くて、次いで、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」が13件となっています。いずれも軽度な部類と言われるケースになっていまして、重大ないじめ問題は確認されていませんけれども、気を引き締めて、少しでも件数が減

るように、予防や早期対応・早期解決に努めています。

○市長（平山誠敏）

今年度は43件が確認されているということですが、これらは全て解決されたのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

認知された43件のうち、38件は既に解消しており、その後に再びいじめ行為があったという報告はありません。また、解消していない残る5件については、現在各学校で継続指導中です。

○市長（平山誠敏）

いじめが原因で不登校になる児童や生徒さんがいると思いますが、当市の状況は、どうなっているのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

当市の小中学生の不登校の児童生徒の数ですが、30日以上欠席者の中で不登校で欠席した数は、27年度は、まだ一学期分しか報告されておりませんので、一学期分で比較しますと、今年度の一学期は、小学校1人、中学校15人となっており、昨年度の一学期は、小学校1人、中学校20人と、中学校は若干少なくなっていますが、ほぼ同じような数字で推移しています。ただ、欠席が30日に満たない不登校傾向の数を入れるともっと多くなります。不登校になる原因として、人間関係のトラブルや家庭環境が一番大きいと思いますが、いじめも理由の一つに数えられます。その他にも様々な理由が重なり合っているようです。各学校では、家庭訪問を重ねて信頼関係を深め、再び登校してもらう雰囲気作りに努めてもらったり、市内全ての小中学校にスクールカウンセラーを配置して、気軽に話しかけられる相談相手として活動してもらうことで、いじめの未然防止や早期発見、児童生徒の心のケア等に努めています

○市長（平山誠敏）

いじめは子どもの心に傷をつけて、大人になっても、思い起こすことで痛みを覚える、罪な行為だと思います。まして、それが原因で不登校になるとすれば、その子どもにとって人生の分岐点になってしまうような大変な問題だと思いますので、市としても、教育委員会の皆さんと力を合わせて、対応していきたいと思います。

それでは、私のあいさつの中でも申し上げたところですが、普段、教育委員会からは様々なことについて伝えていただいています。実際に学校へ行って授業の様子を観るとか、普段の学校の雰囲気を感じるという機会が残念ながらありません。委員の皆様は、学校訪問ということで、毎年度、全ての小中学校を訪問されているようですが、そのあたりの状況や感想など、どなたかご紹介いただけないでしょうか。

○丁子谷委員

市長のあいさつにありましたとおり、私達が実際に各学校を訪問してみますと、子ども達のりっぱさや素晴らしさに感心することがあります。ですが、今日は、せっかくの機会ですので、少し気になる問題についてお話したいと思います。いじめの問題とも少し絡んできますが、こ

こ数年で生徒指導の在り方が大きく変わってきたと感じています。いわゆる、問題行動を起こす児童生徒が増えているような気がしますし、問題行動の種類や原因も多岐に渡って複雑さを増してきているように思います。

○市長（平山誠敏）

ひと昔前の生徒指導といえば、非行であったり生活態度の乱れを指導するというイメージでしたが、今日の現状について、内容とか、数の増減などはどうなっているのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

現在も身なりについての指導はありますが、内容としては、暴力的な行為や発言、中には教員に対するものもあり、授業妨害に至るケースなどもみられます。件数としては、これまで徐々に減少してきたのですが、ここ1～2年は増加傾向に変わり、昨年度、指導を受けた数は、小学校66件、中学校では157件となっており、学校によっては対応に苦慮しているところもあります。

○丁子谷委員

最近では、子ども達もスマートフォンを持ったりしているので、他校の生徒とつながりをもって行動するなどしているようで、以前のように自校内だけの問題ではなくなって、学校の先生方も自校の学区外にも目を光らせなければならなくなっているようです。子ども達の指導には、担任の先生、学年主任、生徒指導の先生、教頭など、多くの先生で対応しているようですが、なにせ数が多くなるとは人出も時間もかかってしまうので、現場の先生は子ども達を何とかしようという気持ちがあっても、志があっても、段々疲弊してきてしまっているように感じます。学校訪問をしての率直な感想としては、こうした先生方をサポートする新たな方策が必要になってきているという思いです。

○教育長（長尾孝紀）

各学校で対応している生徒指導の中で、長期にわたるものだったり、特に注意を要するものについては、教育委員会の指導課も加わって対応しています。いずれのケースも密に、かつ、慎重に対応することが求められるうえに、対応ケース数が増えてきていて、職員の多忙さや疲労している様子を見ているので、これまでと同じやり方、体制では難しくなっているというのが実感です。

これは生徒指導だけに限ったことではなく、特別支援教育においても同じ流れが見られます。小中学校に入学する予定の子どもや現在在籍している子どものうち、障害などにより普通教室で就学が心配される児童は事前に就学指導検査を受けますが、その数は年々増えていて、昨年度は30件、今年度は47件でした。近年は、一定の障害が認められても保護者の意志に従って普通教室で学ぶインクルーシブ教育が重視されてきているので、そのような児童生徒を支援する特別支援教育支援員について今後は考えていく必要があるのではないかと感じています。

○市長（平山誠敏）

普通クラスの中にサポートが必要な児童生徒が増えることで、担任の先生の負担が増えるわ

けですし、大変さが容易に想像できます。当市の小中学校には、学校単位で教室内に何かしらの支援員が配置されていると記憶していますが、十分足りていないということなのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

現在、全ての学校ではありませんが学校教育支援員を市の予算で19名配置しています。学校教育支援員は本来、子ども達の学習の支援を目的としているので、教室内において教員補助として子ども達の席の間を歩いて周り、採点して歩いたり、理解が遅れている子どもに対応することとして配置しています。しかし現実としては、特別支援が必要な児童生徒が普通教室で学ぶようになってきましたので、一定の発達障害がある子どものそばに専門で控えたり、じっと椅子に座っておれず教室を抜け出してしまう子を探したり、連れ戻すといった仕事に専念している学校教育支援員もいます。普通教室の環境も、大きな変化の流れが見られていますので、これまでとは違った対応の仕方が必要になってきたと感じています。

○市長（平山誠敏）

いじめの問題、生徒指導の問題、そして特別支援教育の問題についてお話をうかがって、実情が見えてきたような気がします。いずれも、きめ細やかな対応が必要なものだと思いますし、市としても、教育委員会とよく協議し、市として具体的に対応できるもの何なのか、考えていかなければならないと感じているところです。

それでは他に、学校訪問で感じられたことを、お話いただければと思いますが、木村委員から、いかがでしょうか。

○木村委員

それでは、学校給食について、学校給食センターの新設とも関係がありますので、お話ししたいと思います。現在、五所川原市では、旧五所川原地区が給食センター方式、旧金木地区及び旧市浦地区で自校式の給食を行っています。学校訪問では、年に2度、給食センター方式と自校式をそれぞれ1回ずつ給食を食べていますが、今の給食は昔と比べてメニューが豊富なうえにおいしいと感じています。また、栄養教諭の先生の指導下でしっかり提供されているでしょうし、この値段でこの内容にすることができるということで、とてもよく対応して作っていただいているという感想です。今年度、新学校給食センターの建設現場を視察させていただきましたが、素晴らしい設備が整うことに驚嘆しました。来年度の夏休み明けの2学期から新給食センターが稼働することになっていますが、郷土愛教育の観点からしても、地産地消の意味で地元のもの食べていただく必要があると思いますし、これまでと違ってお米を炊いて提供したり、生野菜を下処理できる設備が整えられるということですので、地元産のものをできるだけ使い学校給食として子ども達に提供ほしいと願っています。

○市長（平山誠敏）

現在の給食センターでは、米や野菜の調達、そして調理の仕方などはどうなっているのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

現在の学校給食センターは、旧五所川原地区の小中学校に給食を提供しています。米飯給食

が週に3回あり、うち2回は家から持参してもらい、残る1回は炊きあがってパックに入ったものを給食センターで業者から購入して提供しています。この炊き上がったご飯は、五所川原市産のお米を使ってもらい、学校給食会から購入しています。今後、新給食センターでは炊飯設備があるので家からのご飯の持参をなくして、当市産のお米を週に3回からできれば4回に増やしてご飯を炊いて提供していくことを検討していきます。野菜については、現在、カットされたもの、ボイルされたものなど処理済みのものを購入していますが、新給食センターでは、全てとはいきませんが、ある程度は生野菜を入れて下処理できる設備も整えますので、当市産と指定したうえで入札し、うまく供給が合うようであれば、少しでも地産地消の率を上げていけるのではないかと考えています。

○三瀉委員

私も米やトマトの生産者ということもあって、農林水産業を基幹産業とする五所川原市の子ども達には、食育を推進していくうえで、地産地消の取組が非常に重要な取組であると考えています。以前に私が野菜を直接販売した際、お客さんの笑顔に大きなやり甲斐を感じたり、自分のトマトを食べて美味しかったと言われて非常に嬉しかった経験があり、生産者と消費者の距離が近ければ近いほど、生産者のモチベーションと消費者の食への安心感は非常に大きくなるものだと実感したことがあります。そしてこの経験が、これから地域の将来を担っていく子ども達に、学校給食など体験活動を通して伝えていくべきだと感じています。

あと、新給食センターでは2階にアレルギー食専門の調理場を設けるということですが、実は私の子どももアレルギーを持っていて、周りにも実際にアレルギーで困っている友達がいることを知っていますので、実際にアレルギーを持つ子どもを学校へ通わせる一親として、新しい学校給食センターへの期待は大きいものがあります。

○市長（平山誠敏）

アレルギーを引き起こす食材は何種類もあると思いますが、新給食センターでは、どのくらいの種類に対応していくのでしょうか。

○教育長（長尾孝紀）

アレルギーを引き起こす食材として、卵、小麦、乳、落花生、そば、カニ、エビの7大アレルゲンがありますが、全てに対応というのは無理ですし、稼動当初から何種類もというのなかなか難しいものがあります。また、複数の献立を調理しているのは、他の献立に微量の混入を招くことになるため、複数のアレルギー食材を除いた1種類の対応食を提供していくようにして、その後に様子を見ながら、徐々に、除去するアレルギー食材を増やしていきたいと思っています。

○市長（平山誠敏）

地産地消の願いもありますが、アレルギー対応食については、一歩間違えば命に係る問題になりますので、しっかり準備をして、皆さんに喜ばれる給食を提供してほしいと思います。

それではここで、前回の会議でもそうでしたが、20年以上に渡って教育委員長を務め学校訪問を重ねてこられた阿部委員から、何か昔と今で大きく違ったことなど、お話いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○阿部委員

第1回の会議の際にも話しましたが、平成の大合併以来、教育委員会が組織として引き締まり、非常に良い状況にあると感じています。教育委員長としての約20年間は、当初の釜菟教育長から現在の長尾教育長まで、歴代の素晴らしい教育長に支えられて、自分でも実に人間関係において恵まれて仕事をする事ができたと思っています。

現在の教育委員会の定例会では2～3時間話し合うことがありますが、市町村合併をする前の定例会は説明を聞いた後にさしたる審議もなく30分程度で終了し、その後は学校訪問をするというのが通例でした。当時は現在のように学校統合が進んでいませんでしたので学校数も多く一年をかけて学校訪問をするのですが、実際に訪問してみると、学校側から施設の修繕や備品購入の要望などを説明されるという状況でした。現在ではこれが市町村合併を通じて学校訪問の在り方が整えられ、内容も学校運営に関する説明や授業参観とが主となり、学校訪問らしくなって実に良かったと思っています。また、かつての問題と言えば、荒れた学校ということで暴力やタバコの問題が大きく、学校訪問の際にもそれらしい様子を感じ取ったものですが、現在では少なくなって、いじめの関係が大きな問題になっていると感じています。

○市長（平山誠敏）

ありがとうございました。ただ今、学校が抱える主な問題が暴力的なものからいじめに移っているという状況についてお話があり、大変興味深く伺ったところですが、実際に対応する学校においては難しいものがあるのだろうと様々考えさせられます。本日は、当市の教育の現場である学校の現状を知りたいと思ひまして、皆様に学校訪問で感じ取られた、いじめや、生徒指導、特別支援教育の問題、そして給食についての地産地消やアレルギー対応、また、合併以降の変化についてお話いただき、率直な意見交換を通して、私自身、学校教育に対する想いを共有できたと感じています。子ども達の学校教育については、当市の未来を支える人材を育てる意味でも非常に重要であると思っておりますし、今後とも、皆様のご協力をお願いし、協力体制のもと、教育行政を進めていきたいと願っております。

○市長（平山誠敏）

それでは、これで学校訪問による感想について終わりいたしますが、この他、意見交換として何かございませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

○市長（平山誠敏）

ないようですので、これで、第2回五所川原市総合教育会議を閉会いたします。

閉会 10:49

〈署名〉

五所川原市総合教育会議の運営に関する要綱第8条第2項の規定により、ここに署名する。

平成 27 年 12 月 25 日

五所川原市長

平山誠敏

五所川原市教育委員会教育長

長尾孝紀